



# パレスチナ・ ガザ地区での危機

## 1年の活動報告

爆弾で重傷を負ったラミさん\* (7歳)と  
父親のジャマルさん\* (パレスチナ・ガザ地区)

ガザ地区の子どもたちは、自分たちが起こしたわけでもない危機に、もっとも高い代償を払っています。この1年間で、ガザ地区では1万4,100人以上の子どもたちが犠牲になりました。また、ヨルダン川西岸地区では140人以上の子どもたちが、イスラエルでは37人の子どもたちが犠牲になりました。この危機は、2006年から続く17年間にわたるガザ地区の封鎖を含む、56年間のイスラエルによるパレスチナの占領の末に起こりました。

ガザ地区では、子どもたちの生活の全てが破壊されました。家、愛する人、学校、医療へのアクセス、そして日常を失いました。2万人以上の子どもたちががれきの下敷きになったり、拘束されたり、家族と離れ離れになったりして行方不明となっています。2024年4月以降、完全に機能する病院はガザ地区にはなく、医療システムは壊滅状態です。多くの人々が窮屈で不衛生な環境で生活しているため、病気がまん延しており、8月には、ガザ地区で25年ぶりにポリオの症例が確認されました。ほぼ全人口(96%)が深刻な食料不安に直面しており、約50

万人が飢餓の状態にあります。

一方、ヨルダン川西岸地区では、イスラエル軍による難民キャンプへの空爆、700人以上の子どもたちの拘留、嫌がらせ、建物の破壊、入植者による暴力で3,200人以上が避難を余儀なくされるなど、暴力と武力行使が劇的に増加しています。

ガザ地区での人道支援のニーズが急増しているにもかかわらず、イスラエル当局による組織的な支援の妨害、強制的な避難命令、物流上の課題、人道支援団体への攻撃など、多くの課題に直面しています。

危機の開始から1年が経過した今も変わらず、私たちは、子どもたちや家族が安全に必要な支援を受け、回復する機会を得られるよう、即時かつ恒久的な停戦と、人道支援のアクセスの担保を求め続けています。

困難のなかで、セーブ・ザ・チルドレンと現地パートナー団体はこの1年、子どもたちとその家族の命を守るため、支援活動を続けてきました。

## 現地パートナー団体との連携により実施した活動



現金支援、食料、衛生的な水、衛生用品などの生活必需品の配布



子どもたちが遊んだり学んだりできる「こどもひろば」や仮設学習スペースの設置



子どもたちとその養育者へのカウンセリング、精神保健・心理社会的支援の提供



爆発による負傷の治療など、子どもたち、母親、乳幼児の命を救う医療・栄養支援の提供

## 皆さまのご寄付により、1年間で支援することができた人数(国別)

68万  
8,299人

ガザ地区

2万  
7,488人

ヨルダン川西岸  
地区

6万人

レバノン

3,818人

エジプト

危機に直面した子どもたちをご支援いただきありがとうございます。

# パレスチナでの支援活動

セーブ・ザ・チルドレンは1953年以来、パレスチナの子どもとその家族を支援してきました。ガザ地区やヨルダン川西岸地区を含むパレスチナ全体で活動する100人以上のスタッフと多くの現地パートナー団体と共に活動しています。危機によって、自分たちも被災し、困難な状況にいるにもかかわらず、セーブ・ザ・チルドレンと現地パートナー団体は、この1年、子どもたちの命を守る支援に尽力してきました。

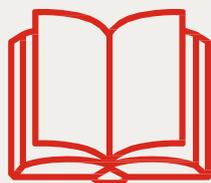
この1年でガザ地区50ヶ所に  
暮らす 68万8,299万人を含む  
71万5,787人以上に  
支援を届けました。



6万8,113人

## 子どもの保護と精神保健・心理社会的支援

- 現地パートナー団体の「アイシャ女性・子ども保護協会」と提携してこどもひろばを設置し、子どもたちが安全に遊び、学び、精神保健・心理社会的支援を受けられる場所を提供しました。
- カウンセリングや、以前拘留されていた子どもたちへの支援など、養育者と離れ離れになった子どもたちなどに支援を提供しました。
- 補聴器や移動補助具などの提供を通して、障害のある子どもたちを支援しました。



4,400人の子ども

## 教育

- 子どもたちができるだけ早く学習に戻れるよう、仮設学習スペースを設け、文房具などを提供しました。
- 子どもたちが教育に戻るための総合的なサポートを提供するためにコミュニティエンゲージメントワーカーを採用し、トレーニングを行いました。
- 教員マッピングを実施し、ガザ地区の1万4,800人以上の教員のデータベースを作成し、人道支援組織ができるだけ早く教育プログラムを開始できるようにしました。



51万7,401人

## 水・衛生、シェルター(簡易住居)

- 避難所で暮らす家族に避難キット、衛生用品、飲料水を提供しました。
- 現地パートナー団体であるバイト・ラヒア開発協会とセーブ・ユース・フューチャー・ソサエティを通じて衛生促進セッションを実施しました。
- UNRWAの避難所20ヶ所で上下水道、衛生施設のメンテナンスを実施しました。
- 避難所に移動式トイレ40台を設置し、生活用水の配給と清掃活動を実施しました。



18万3,450人

## 現金支援、食料安全保障

- ガザ地区北部を含む飢餓リスクがもっとも高い地域に、現地パートナー団体を通じて1万700個の食料パックを配布しました。
- 5万2,700人以上に少額の現金を支援し、食料や医薬品など、家族に必要なものを購入できるようにしました。

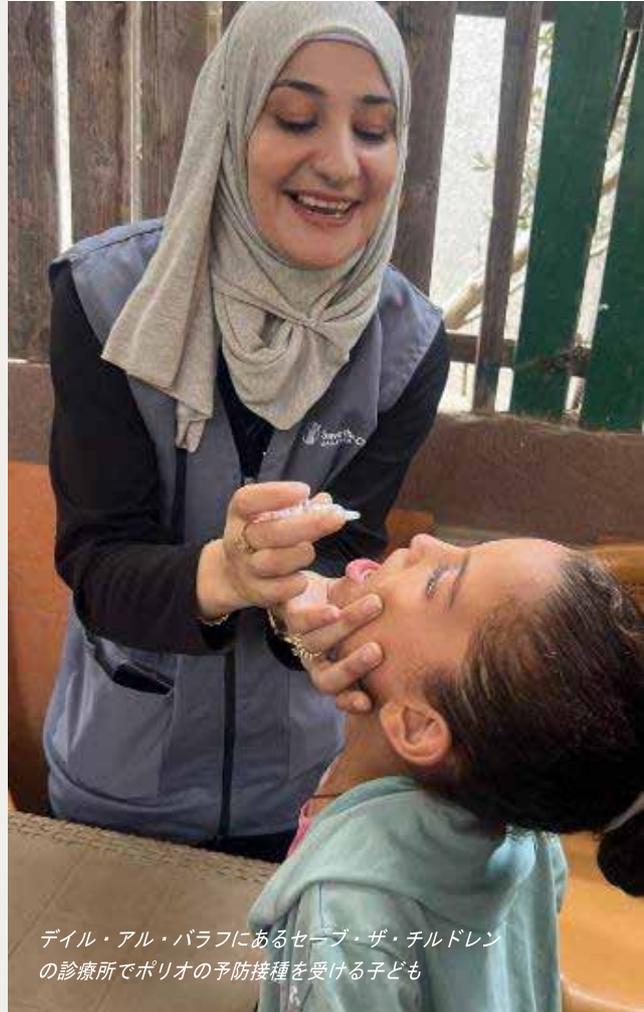


## 保健・栄養

4万5,720人

4月に緊急医療ユニットを派遣し、人々の命を救うために、以下の活動を実施しました。

- アル・マワシ病院にて産科病棟を開設し、妊産婦に産前、産後ケアを提供し、安全な出産を支援しました。
- アル・マワシ病院で小児科医療を提供し、爆発による重傷や火傷を負った子どもたちの治療、手術の実施、重篤患者の蘇生、子どもたちの術後ケアを行いました。
- デイル・アル・バラフに診療所を開設し、妊産婦、乳児、子どもに保健・栄養サービスを提供しました。開設以来、1万5,395人の妊産婦を診察し、8,404人の子どもたちの栄養状態を検査し、200人以上の医療従事者の研修を行いました。また、母親向けの母乳育児のサポートを含む栄養カウンセリングを実施しました。
- 9月初旬には、ポリオ予防接種キャンペーンを実施し、1,800人以上の子どもたちへの予防接種と、医師と看護師へのワクチン接種方法の指導を行いました。



デイル・アル・バラフにあるセーブ・ザ・チルドレンの診療所でポリオの予防接種を受ける子ども

## ヨルダン川西岸地区

2万7,488 人に支援を届けました。

- 増加する暴力の影響を受けたパレスチナの人々を中心に、防寒着や衛生用品、ベビーキットの配布、現金支援などを行いました。これまでに、2万7,716人以上に現金を支援し、3,762人以上に飲料水や衛生用品、生活必需品を提供しました。
- 4,400人以上の子どもたちが安全で包括的な教育を受けられるよう支援し、現地パートナー団体であるYMCAやパレスチナカウンセリングセンターと提携して実施したサマーキャンプなどを通じて、1,858人の子どもたちに精神保健・心理的社会的支援を提供しました。また、幼稚園教諭の研修を通じて子どもたちの早期学習を支援してきました。

### ラナさん\*のケース

ガザ地区での危機が始まったとき、ティマさん\*は妊娠4ヶ月でした。彼女はこう言います。

「危機の中で、初めての子どもを妊娠するのは大変でした。ビタミン剤を飲んで健康的な食べ物を摂るように心がけました。ただ、一ヶ所に避難して落ち着いても、また別の場所に避難しなければなりません。」

2024年4月、セーブ・ザ・チルドレンはティマさんとその家族が避難していた場所からそう遠くない場所に産科病棟を開設しました。彼女はすぐに初めての産前検診を受け、わずか数週間後にはセンターで出産した最初の母親になりました。

「ラナが生まれたとき、私は幸せを感じました。出産する居場所を見つけることができ感謝しています。」

緊急医療ユニットの活動により、アル・マワシ病院の産科病棟で100人以上の出産を支援しました。



# 現地におけるセーブ・ザ・チルドレンの役割

セーブ・ザ・チルドレンは、パレスチナの支援現場において、重要な役割を果たしています。支援団体間の活動を調整して、より多くの人々を支援し、もっとも弱い立場にある人々に支援が届くようにしています。

例えば、セーブ・ザ・チルドレンは人道支援国別チームやクラスター（国連主導の分野別に機能するグループ）の代表的なメンバーも務めています。

特に、ヨルダン川西岸地区の教育クラスター(\*)では、共同リーダーを務めています。

また、子どもの保護、ケースマネジメント、食料安全保障と生計、現金給付、保健・栄養、水・衛生、避難所管理、ジェンダー、セーフガーディングのクラスターでも重要な役割を担っています。

(\*)人道支援が行われる地域で、支援団体が支援の活動を調整するための機能を持つ国連主導のグループのこと

## 現地パートナー団体と連携

ガザ地区におけるセーブ・ザ・チルドレンの活動は、支援するコミュニティと強い関係を持ち、幅広い知識を持つ現地パートナー団体との協働によって進められてきました。

日ごろから、セーブ・ザ・チルドレンはパレスチナ自治区にある15以上のパートナー団体と働いていますが、そのほとんどと長年にわたって協力して活動してきました。現在、保健・栄養、子どもの保護、教育、水・衛生、避難所管理、食料安全保障と生計の専門知識を持つ11のパートナー団体とガザ地区で協力しています。

例えば、 Beit Lahia Development Association (BLDA) と国際連合人道問題調整事務所 (UNOCHA) とのパートナーシップにより、人道支援から遮断され、飢餓のリスクが最も高いガザ地区北部の世帯に食料を届けることができました。非常に困難な作業でしたが、6週間にわたるイスラエルとの交渉と、4回の試行を経て、430個の食料パックを無事に人々に配布することができました。ガザ地区北部のBLDAチームとボランティアは、コミュニティ間での食料の管理と配布に重要な役割を果たしました。

この危機の間、子どもたちと家族と共に活動して下さったパートナー団体の皆さまに感謝します。



\*セキュリティ上の観点から、リストに掲載されている現地パートナーは一部となります。

# エジプトとレバノンでの支援活動

## エジプト

310人のスタッフと現地パートナー団体とのネットワークを駆使して、ガザ地区の人々に物資を届けるために、重要な役割を果たしています。

国境が封鎖に近い状況でしたが、以下の物資を届けることができました。

- 68万4,504リットルの水
- デイグニティキット（生理用品などを含む日用品）
- 4,460個とベビーキット4,154個
- 5,894個の家庭用衛生キット
- 1万9,132個の食料パック
- 1,400個の避難キット、寝具、毛布、マットレス
- 衣料品8,400点

また、低出生体重児や新生児など、ガザ地区からエジプトに搬送されてくる医療が必要な避難者の支援を実施しています。現地パートナー団体のコミュニティジャミールとともに保育器や医療用品を提供し、147人の医療従事者にセーフガーディングなどの研修を実施しました。加えて、現金支援や、緊急医療、精神保健・心理社会的支援を提供し、エジプトに避難してきたパレスチナ人3,818人以上を支援しました。

## レバノン

レバノンの子どもたちも、特に緊張が高まっているイスラエルとの国境沿いで暴力を経験しています。

過去1年間で、私たちは避難を余儀なくされた2万4,000人の子どもたちを含む6万人以上を支援してきました。

レバノンで以下の支援を実施しました。

- 衛生用品 4万6,578 個
- 3億6,100万リットルの水
- 34万3,012本のボトル入り飲料水
- 枕、毛布、マットレス1万9,358セット
- 6,500個の食料パック
- 1,029セットの太陽光の街灯と充電式電池
- 上下水道施設、7つの衛生施設の修繕
- 2万787人への現金給付

私たちは避難所での教育支援、精神保健・心理社会的支援も提供しています。引き続き、私たちはレバノンの子どもたちとその家族を支援し続けます。

## ハニさん\*のケース

エジプトの友人を訪ねていたときにこの危機が始まったため、ハニさんはガザ地区の家族の元に帰ることができませんでした。

ハニさんは、エジプトで何もできないことに苦しんでいましたが、セーブ・ザ・チルドレンのボランティアを始め、ホットラインの電話対応でエジプトに避難してきたパレスチナ人へ必要なサポートを提供しています。彼は、ボランティアをすることで、苦しみから解放されたと語っています。



## 今後の支援

セーブ・ザ・チルドレンはパレスチナで70年以上活動しています。私たちは、この危機に巻き込まれた子どもたちを支援するために、今後も全力を尽くします。

しかし、完全な停戦が実現しない限り、子どもとその家族が強制的に避難させられることが繰り返されます。また、人道支援を提供し続けたり、職員の安全を確保したりすることがさらに困難になることも予想されます。

そのため、私たちは全世界に向けたアドボカシー活動を通じて、以下のことを引き続き呼びかけています。

- 即時、かつ恒久的な停戦 #CeasefireNOW
- 子どもたちの保護、残虐犯罪の防止
- ガザ地区の人々に支援を届けるために、イスラエルの検問所の開放
- 当事者への、パレスチナとイスラエルの子どもたちに対する重大な違反行為に対する説明責任の追及
- 関係各国からの武器、部品、弾薬の供給と、攻撃の扇動の停止

今後数ヶ月での活動計画は下記です。

- 「こどもひろば」を増設し、精神保健・心理社会的支援を継続的に実施
- 追加の仮設学習スペースを設置し、教育支援を実施
- 特に学校や避難所における上下水道システムの復旧
- 2つの新しいプライマリヘルスケアセンターを開設し、母子エリアを追加
- 世帯への現金支援を継続



ジアドさん\*、ハラさん\*と娘のモナさん\*(10ヶ月)、ガザ地区からエジプトに避難し、現在はカイロでセーブ・ザ・チルドレンの支援を受けています。

皆さまのご支援に  
心より感謝いたします

ありがとう  
ございます

安全を求めてガザ地区からエジプトに逃れたラミさん\*(7歳)と父親のジャマルさん\*。  
2人とも空爆による負傷の治療と回復に向けての支援を受けました。

皆さまのご支援により、緊急下にある多くの  
子どもたちに支援を届けることができました。  
子どもたちのよりよい未来を信じ、  
セーブ・ザ・チルドレンを支援していただき、  
ありがとうございます。

「すべての子どもたちは生き、成長し、  
可能性に満ちた未来を築く権利がある」

イスラ・アル・カワジ  
(セーブ・ザ・チルドレン・ガザ地区事務所 精神保健・心理社会的支援コーディネーター)



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン発行 2024年10月

レポート写真提供: セーブ・ザ・チルドレン  
\*プライバシー保護のため名前は変更されています